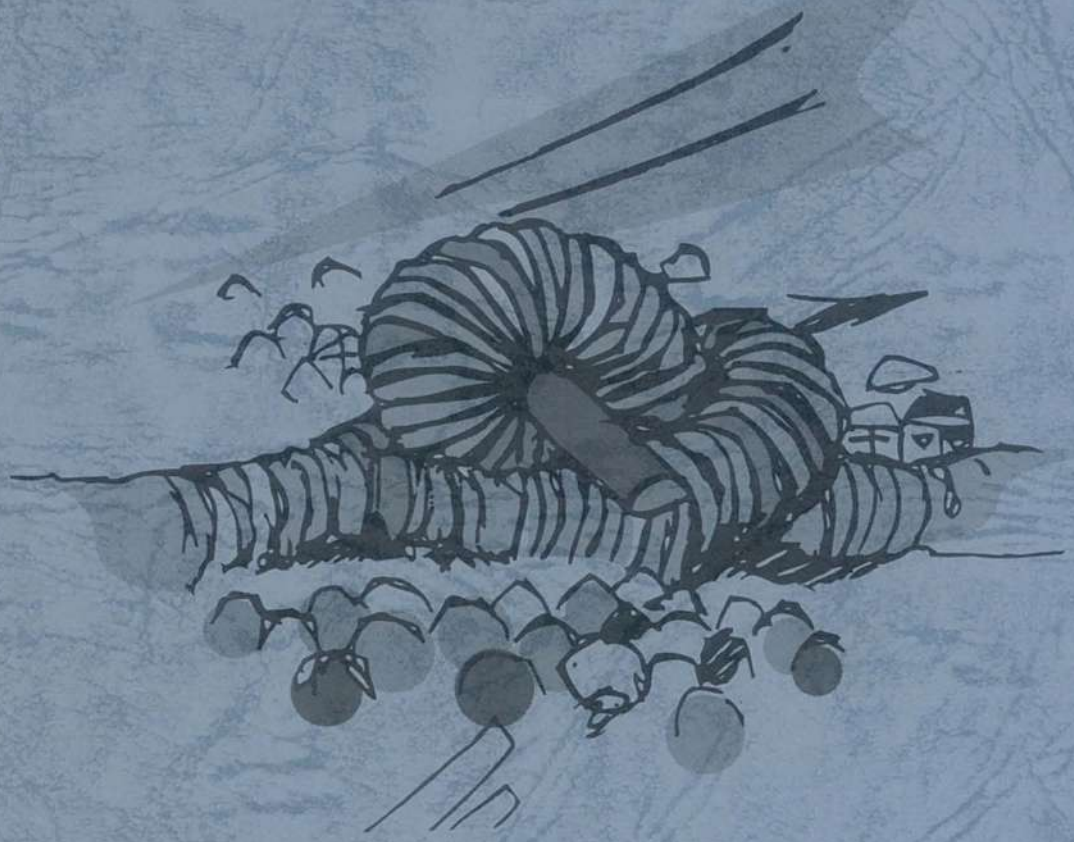
平成25年度

ウチナーンチュ子弟留学生修了報告書



沖　縄　県

公益財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

はじめに

ウチナーンチュ子弟留学生受入事業は、海外に在住する沖縄県出身移住者子弟から優秀な人物を県内の大学や県内企業、伝統芸能修得機関（以下「大学等」という。）で修学・研修させ、沖縄の歴史・文化・習慣の理解や、県内企業での実務経験、県民との交流を通して、将来的に本県と県系人社会とのネットワークの架け橋になる人材を育成し、もって、本県と出身国との国際交流に寄与せしめることを目的としています。

昭和４４年度（１９６９年）の事業開始以来、本年度を含め５９４名の留学生を受け入れてきました。本事業を修了し帰国した留学生 OB・OG は、沖縄で習得した知識と経験を生かし、様々な分野において活躍しており、また、県人会活動にも積極的に参加するなど、母国と本県とのネットワーク拡充に貢献しております。

平成２５年度は、ブラジル２名、ペルー２名、アルゼンチン４名、ボリビア２名の合計１０名を受入れ、そのうち３名が沖縄国際大学、３名が名桜大学、１名が沖縄県立芸術大学にて修学し、１名が特定非営利活動法人沖縄 NGO センターにおいて研修を行いました。また２名が沖縄国際大学での修学後、株式会社日進ホールディングスにおいて研修を行うなど、勉学や技術修得に励みました。

この報告書は、留学生が沖縄滞在中に感じた日本・沖縄に対する率直な意見や感想、大学での修業成果等をまとめたものです。学内スピーチ大会や課外活動、沖縄での親戚や友人等との交流など、様々な経験を経て成長していく姿を垣間見ることができると思います。本書が、当事業理解の一助となれば幸いです。

最後に、本事業実施に当たり、留学生を受け入れていただきました沖縄国際大学、名桜大学、沖縄県立芸術大学、特定非営利活動法人沖縄 NGO センター、株式会社日進ホールディングス並びに関係者の方々に対し、心から感謝申し上げます。

平成２６年３月

沖縄県知事公室長
又　吉　　進

平成２５年度　ウチナーンチュ子弟留学生修了式　平成26年3月12日　於・サザンプラザ海邦

高良副知事表敬　平成 25 年 5 月 30 日　於：県庁 6 階　第 2 特別会議室

財団　大城理事長表敬　平成 25 年 6 月 14 日　於：財団 3 階ホール

目　次

○ウチナーンシュ子弟留学生（10 名）

・沖縄大冒険　比嘉　カロリーナ　アンドレア…… 1
（アルゼンチン）

・ちむぐくる　高江洲　ヘシケ　ジュリア　サオリ…… 7
（ペルー）

・日本にあるもうひとつの沖縄　イノウエ　カルロス　昭雄 …… 13
（ボリビア）

・ウチナーライフ　屋良　朝仁 …… 18
（ボリビア）

・命どぅ宝　田辺　エリアナ　ナンシー …… 22
（アルゼンチン）

・ブラジルウチナーンチュの一年の旅路　松本　カリナ　紗登美 …… 30
（ブラジル）

・「海を越え、言葉を越え」沖縄にもらった宝物　ウリベ　チネン　クラウディア　ハツミ … 35
（ペルー）

・私のうむい（想い）　上里　ラリサ　亜沙美 …… 40
（ブラジル）

・100％ウチナーンチュ血のアルゼンチン人　仲松　デボラ　カルラ …… 45
（アルゼンチン）

・１年間、毎日沖縄が幸福にしました　上原　カレン　マリアナ …… 49
（アルゼンチン）

平成25年度　ウチナーンチュ子弟留学生名簿

比嘉　カロリーナ　アンドレア

出身国：アルゼンチン
企業研修生
(特活)沖縄NGOセンター

高江洲　ヘシケ　ジュリア　サオリ

出身国：ペルー
沖縄県立芸術大学
琉球古典音楽コース

イノウエ　カルロス　昭雄

出身国：ボリビア
沖縄国際大学
科目等履修生
企業研修生
株式会社
日進ホールディングス

屋良　朝仁

出身国：ボリビア
沖縄国際大学
科目等履修生
企業研修生
株式会社
日進ホールディングス

田辺　エリアナ　ナンシー

出身国：アルゼンチン
沖縄国際大学
科目等履修生

松本　カリナ　紗登美

出身国：ブラジル
沖縄国際大学
科目等履修生

ウリベ　チネン　クラウディア　ハツミ

出身国：ペルー
沖縄国際大学
科目等履修生

上里　ラリサ　亜沙美

出身国：ブラジル
名桜大学
科目等履修生

仲松　デボラ　カルラ

出身国：アルゼンチン
名桜大学
科目等履修生

上原　カレン　マリアナ

出身国：アルゼンチン
名桜大学
科目等履修生

沖縄大冒険

比嘉　カロリーナ　アンドレア（アルゼンチン）
特定非営利活動法人　沖縄 NGO センター

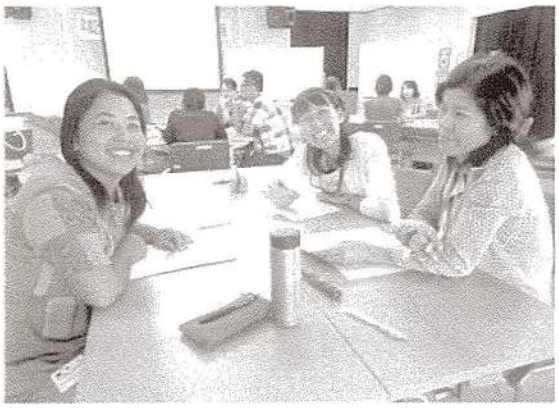
２０１２年にウチナーンチュ子弟留学生として沖縄に来ました。１年半のプログラムを終えて、半年を延長承認されました。沖縄を離れるのはすごく寂しいですが、２年間は夢のようでした。

２０１３年の４月から１０月まで沖縄 NGO センター（ＯＮＣ）でインターンとして活動をしました。沖縄移民について学ぶためにＯＮＣは最適な場所だと考え、希望しました。私の目的は沖縄とアルゼンチンの両方で使える教材を作ることでした。ＯＮＣで働いて学んだのは、沖縄移民のことだけではなく、沖縄や世界の生物多様性や開発における問題、グローバル化による多文化共生や地域の問題など、様々です。この活動で自分の視野が広がり、人と人とのつながりや関わり合いがとても大切であることを再確認することができました。

ＯＮＣでの活動は①学ぶ②伝える③楽しむ、が大きな特徴でした。

まず、１つ目の「学ぶ」では主に講座や広場がありました。講座は「国際理解教育・開発教育指導養成講座」が中心で、平和学習、人権教育など、テーマは様々ありました。そのオーガナイズや勉強会を行いました。
例えば、「ジンちゃんの学び」では金さんを講師に招き、教材作りについての講座を行いま

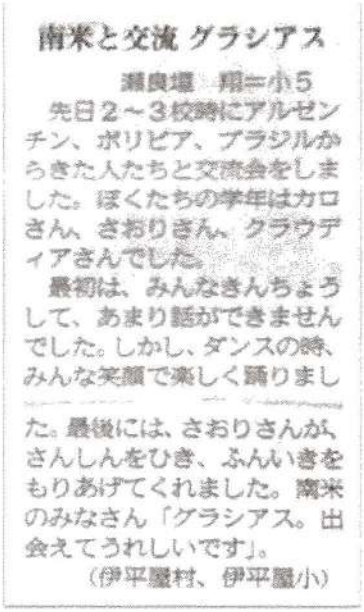
2013 年 8 月 17 日の地球市民ひろばのちらし



国際理解教育・開発教育指導養成講座の様子

した。この講座は私の目的や興味関心にもとても近く、学ぶことが多かったです。それは私だけではなく、ほかの参加者から「とっても興味深かったです。とくに共通点探しは初めてさせてもらいましたが、とってもいいワークだと思いました。私たちは無意識のうちに違いを探していたんですね。とっても勉強になりました。今日はありがとうございました！！」と言うコメントなどをもらえて、とてもやりがいのある活動だと感じています。

２つ目は「伝える」ために出前授業やスペイン語講座、ウチナージュニアスタディのワークショップなどを行いました。出前授業は主にアルゼンチンと沖縄移民について伝えることを２つ中心に担当しました。２０１３年９月には伊平屋小学校にほかの県費留学生と共に訪問しました。その訪問について２０１３年１０月１１日の沖縄タイムスに感想記事が掲載されてとても嬉しく思いました。



南米と交流 グラシアス

[illegible]小5

先日2～3校時にアルゼンチン、ボリビア、ブラジルからきた人たちと交流会をしました。ぼくたちの学年はカロさん、さおりさん、クラウディアさんでした。

最初は、みんなきんちょうして、あまり話ができませんでした。しかし、ダンスの時、みんな笑顔で楽しく踊りました。最後には、さおりさんが、さんしんをひき、ふんいきをもりあげてくれました。南米のみなさん「グラシアス。出会えてうれしいです」。

（伊平屋村、伊平屋小）

左：沖縄タイムスの記事。右：スペイン語講座の様子

スペイン語講座は週に１回、スペイン語に興味ある人達を対象に行いました。大学院生が多く、調査依頼のメールのチェックやインタビュー対策など高度で専門的なスペイン語と日本語の通訳を行いました。

ウチナージュニアスタディでは最初にアイデンティティーについてワークショップを行い、最後はまとめも行いました。まず、アイデンティティーについてのワークショップでは、参加者に絵や言葉で自分のアイデンティティーについて表現してもらいました。初めてこのテーマについて考える参加者も多く、彼らにとって良い機会を作られたと感じました。まとめのワークショップでは「ポンチョス」というアルゼンチンで経験したワークショップを参考にした、メッセージゲームを行いました。紙を服のように着て、背中からメッセージを書いてもらうゲームです。大盛況でウチナージュニアスタディの最後を締めくくることができました。

３つ目に「楽しむ」では子育て支援や読み聞かせ、ラジオやアースハーモニーなどのイベントを行われて、私自身も楽しめることができました。子育て支援は「ひらけ！地球のとびら」というタイトルで同じ地域に住む沖縄の人や外国出身の親子を交流させるプログラムです。そこでは民族衣装を着たり、楽器を触ったり、ダンスを踊るなど体験するブースを作りました。イベントの会場は名護市だったので、昨年留学していた名桜大学の友人たちがボランティ

左上：2013 年 9 月のひらけ！地球のとびらイベント。左下：ラジオ番組の様子。

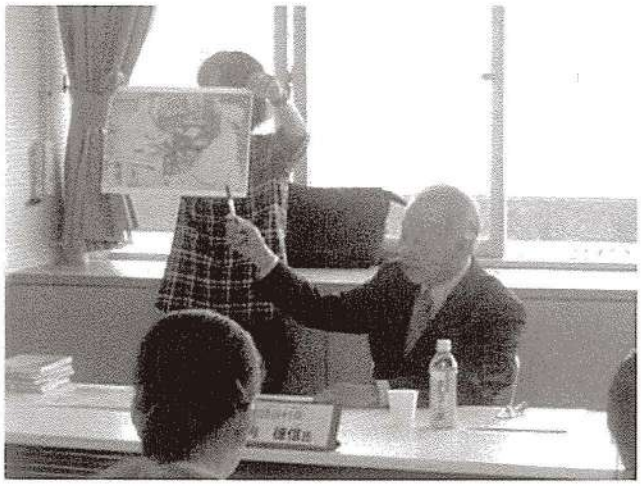
アとして参加してくれてとても嬉しかったです。読み聞かせは宜野湾市民図書館で開催し、３歳から６歳頃の子供たちを対象に行いました。とても元気な子達が多く私も楽しむことができ、パワーをもらいました。ラジオは、月に１回「チャンプレアンド」という番組をＯＮＣが担当しています。毎回ゲストを呼んでＯＮＣのスタッフと話しをする形で進めています。私は毎回ラジオで日本語を話すということに緊張していますが、ゲストの話しを引き出すための会話の仕方や番組の進行を考えるのがとても楽しいです。アースハーモニーは「命をつなぐ」をテーマに、人権問題を考えることを趣旨として開催されるイベントです。今年はチョコレートからフェアトレードと児童労働について考えるプログラムでした。大きなイベントだったので、ほかの団体（ＯＮＥ　ＬＯＶＥ、がじゅまるガーデン）とも協力して作り上げる課程が楽しめました。

今までの成果として、沖縄移民の教材については年齢に応じたものを作ることはできました。しかし、それは沖縄の人を対象にしたもので、私が作りたい沖縄やアルゼンチンでも使える１つの教材作りはできていないので、今後の課題としたいです。

また、沖縄NGOセンターの仕事以外に勉強会グループに参加しました。沖縄戦や基地問題について話したり、フィールドワークを行ったりしました。その成果は沖縄国際大学祭にて発表ブースを出しました。そこで得た経験や知識を成果としてアルゼンチンに持って帰り

勉強会グループのメンバー。沖縄国際大学祭のブースに戦争や紛争被害女性を支援するナビ基金への寄付も行いました。

たいと思います。アルゼンチンへ移民した私の祖先は沖縄戦について少しだけ教えてくれて、沖縄へ行って実際にその跡を尋ねたり、話を聞いたりしてとても勉強になりました。元沖縄県知事大田昌秀様の沖縄国際平和研究所訪問と読谷村の元村長山内徳信様の話しは一番印象に残りました。基地問題について興味を持ったきっかけは名桜大学で平和学の短期講座に参加して、初めて辺野古と高江について聞いたからです。辺野古と高江に座り込みしてる方々の話しを聞いて、基地についてあまり意識してないアルゼンチンのウチナーンチュに伝えるべきだと思いました。この課題についてもっと知りたい仲間を見つけてとてもよかったです。沖縄と南米、世界のウチナーンチュが皆力をあわせて沖縄の将来を考えるといいなと思います。



山内　徳信氏（元読谷村長）

大田　昌秀氏（元沖縄県知事）

この2年間に沖縄の自然の様々な所へ行くこともできました。暑い夏の日に名護市の２１世紀の森の公園や宜野湾市のトロピカルビーチの海に入ったり、古宇利島の橋から海を眺めたりしました。市町村研修生とバーベキューを楽んだり、糸満市の米須公民館の親子とイノー歩きをしながらそこで生きている色んな生物のことを知りました。伊江島で自転車を借りて冬の晴れた１日を過ごしたり、沖永良部島でジョギング大会に参加しました。１０月にアルゼンチンから小さい頃からの友達が沖縄に来てくれて渡嘉敷島と座間味島の美しい海に行きました。そして、慶良間諸島でダイビングを挑戦しましたが、怖くて１回しか潜ることができませんでした。ダイビングをまた挑戦してみたいなー！やんばるツアーは一番印象に残った旅です。辺戸岬で一泊キャンプして、自分で火を付けて料理を作ってとても楽しかったです。タナガーグムイの滝から飛び込んだり、本部町の海でシュノーケリングして、夜は宜野湾市のビーチに入りました。夜に海に入ったことはその一回だけでしたが、今から色んなビーチにも入りたいと思います。

もちろん、沖縄の自然は本当にきれいですが、様々な理由でだんだん汚染されてます。そこで、10年間活動してる沖縄OCEANというNPO団体を友達に紹介されました。代表はスペインのカナリアス諸島出身の人です。この団体は毎月一箇所を選んで、ビーチクリーン

左：フォーラムのポスター。右上：沖永良部島にて、友達の呼びかけでビーチクリン。

右下：タナガーグムイ滝にて。

を行っています。ボランティアを募集しながら、地域の市民と協力する活動です。それから、2013年10月に沖縄OCEANが主催で、沖縄NGOセンターは共催として、国際フォーラムを行うことができました。とても忙しい４日間でしたが世界中の環境問題の専門家の発表を

聞いて、とても勉強になりました。それから、現在のテクノロジーを使用しながら汚染を戦い、将来のテクノロジーを考えてる方々の意見も聞いて興味深いフォーラムでした。

文化について、様々な再発見をすることができました。県立芸術大学の留学生のおかげで初めて世界文化遺産の組踊いのことを知って、最初は意味が分からなくてあまり興味がありませんでしたが、徐々に好きになっていきました。国立劇場で開催された組踊バージョンの「スイミー」や「桃太郎」を楽しむことができてとてもよかったです。それから、沖縄市に行われた「こども組踊」に参加しました。３歳からの子供は琉球舞踊を踊ったり、唄三線や組踊をパフォーマンスしてとてもて感動しました。アルゼンチンで活動してるのはほとんど創作エイサーグループです。だから、沖縄に居る間にできるだけ伝統エイサーをみたかったです。旧盆の時期には様々な所でイベントが行われてとても嬉しかったです。ある夜、アパートから太鼓の音が聞こえて、道に出ました。地域の青年会は道じゅねーしていました。友達も呼んで、皆でビールを飲みながらエイサーを楽しみました。そして、うちなーぐちの講座を挑戦してみました！沖縄と同じようにアルゼンチンでおじいちゃんとおばあちゃんしか話せないです。私のルーツの言語を知るべきだと思って、少しでも勉強することは重要です。この短い期間で挨拶しか習ってないけど、これからも頑張りたいと思っています。

沖縄に来るのが３回目です。父親の故郷。アルゼンチンに移民したおじい、おばあ、おじさん、おばさんの故郷。まだ沖縄に住んでいる親戚の故郷。何回も何回も来ても、もっともっと来たくなる島です。私のルーツの深くに刻まれてる沖縄の習慣や文化。ウチナーのことはなんでもチムドンドン。ここに出会った皆様から様々なことを習いました。私の親戚が毎回優しく受けいれてくれて、ずっと一緒に住んでるみたいな暖かさで歓迎してくれる。

皆様に大変お世話になりました。心から感謝しております。

左：沖縄 NGO センターの皆様。右：２０１３年度ウチナーンチュ子弟留学生と沖縄県国際交流人材育成財団の担当。

ちむぐくる

高江洲　ヘシケ　ジュリア　サオリ（ペルー）
沖縄県立芸術大学

私は高江洲ヘシケジュリアサオリと申します。36歳です。ペルーのリマ出身です。県費留学生として、沖縄県立芸術大学で古典音楽の勉強をしていました。ペルーで三線を再生させるために、沖縄の歌を歌い始めて10年が経ちました。グループ「ハイサイウチナー」と「野村流音楽協会ペルー支部」の三線、そして仲間との交流で三線を学んできました。これまでは、私が知っているウチナーグチははるかに少なく、三線のCDを聞き、沖縄で演奏されているのと同じようにしようとしてきましたが大変なことでした。

私が沖縄に来たばかりの時、ウチナーグチの発音は非常に悪かったです。そしてそれは、先生方にたくさん修正していただいて初めて気づいたことでした。

私は2012年に、沖縄市の研修生として初めて沖縄に勉強しに来ました。研修では3ヶ月の間に美術、音楽、踊り、沖縄の文化について多くを学ぶことができましたが、私はこの学びを続けたいと強く思いました。そして私は県費留学の試験を受けることにしました。今は、ここ沖縄県立芸術大学で県費留学生として研究の機会にめぐまれたことを非常に感謝しています。この1年は素晴らしい経験でした。

芸大で勉強するのはユニークな経験だったと思います。先生方は非常に優れた技術を持ち、多くの経験を積まれています。大学の一年生も、はるかに高いレベルを持っていて、さらにいつも私をサポートしてくれ、学内演奏会や試験のために一緒に練習もしてくれました。仲村逸夫先生は地謡の授業のときいつも問題があったら説明をしてくださり、理解できないと、動画や写真を見せてわかりやすく教えてくださいました。忍耐強く指導してくださったことは私にとって本当に良かったです。また、一緒のクラスを取っていた二、三、四年生の先輩方はいつも手伝ってくれ、一緒に練習をしてくれました。ありがたかったです。

1年のうち、前期は三線、地謡、太鼓、笛、舞踊、箏の実技と詞章研究、創作基礎の理論を受講しました。また、芸大の他の留学生と一緒に日本語のクラスも取りました。三線の授業で古典音楽と地謡を習いました。例えば、舞踊曲の場合本歌と違って歌詞や歌い方が変わります。そして立方（踊り手）の動きを見ながら一緒に演奏する方々と合わさなければ成りません。

地謡では何よりもグループとしてプレーし、踊りと調整することが大事だと学びました。この学びをいかしてペルーでも沖縄の地謡のレベルに到達することができるように願い、努力したいと思います。

大学では笛を学ぶ機会もありました。宮城英夫先生は非常に辛抱強く私を教えてくださって、琉球新報新人賞を受けるために私を励ましてくださいました。私は緊張しましたが試験に合格することができました。これからもたくさん練習して、私の好きな八重山の曲を吹けるようになりたいです。

また、芸大では太鼓の「光史流」を勉強し指導してもらったのは比嘉聡先生でした。地謡に合わせて展開する演奏で、決して簡単ではありません。例えば「かぎゃで風節」と「上り口説」かぎゃで風の踊りは老人踊りと呼ばれています、優しい清らかな音を求められていますが　上り口説には　二才踊で若い男の様に　いきいきと力強い打ち方が適しています。又、西原町で同じ流派の大城利江（としえ）先生に芸大で習った事を復習していただいて幸運でした。　私はここで、多くのことに感心しました。例えば教室に敬意を払うことです。教師も学生も練習する場所に入るとき敬礼します。私はペルーにこの習慣を伝えるつもりです。

また、私は沖縄民謡の泉川寛先生の西原町にある道場に入りました。他の生徒たちと一緒に三線を週２回練習しました。８月に泉川先生に民謡コンクールへの参加を勧められました。試験当日に　仲間が私をたくさん応援してくれました。着物を貸してくれたり、整髪や衣装の着付けもしてくれました、そして美味しい差し入れを持って来てくれました、心もお腹もいっぱいいっぱいでした。非常に緊張していましたが、皆様のおかげで合格することができました。

別の民謡関係の舞台で大好きだった古謝美佐子さんの歌「ナークニー」を選びました。以前、ペルーで演奏していたものをここ沖縄のステージ上で紹介できたことはすばらしい経験でした。

私は沖縄で出会ったすべての人が大変親切だと感じました。ある日私はタクシーを利用しました。このとき、私は運転手さんに行先を言ったあとで世間話が始まっていろいろな話をしました。しかし、私は途中でタクシーのお金が足りないことに気づきました。そのことを運転手さんに話すと「次でいいよ」と言い、さらには「三線頑張って頑張って」と言ってくれたのです。ペルーではこのようなことは起こりません。

沖縄に来る前から、私たち県費留学生たちはフェイスブックですでに繋がっていました。沖縄に来て実際に会い、多くの活動や会議を開いてきた私たちには今では強い友情の絆がで

きました。Los voy a extrañar mucho!!! 一年の間、幸せなこと、悲しいこと、良いことや悪い事があるときも共にすごし、おかしな話もたくさんしました。例えば　各国で使っているスペイン語の中でも　意味を異なる言葉があります、たまにほかの留学生と普通に喋っている時「えっ…！」って言う顔で見られてました。その時にスペイン語でも〇〇弁がある事が知りました　(笑)。

そして、私たちは異なる言葉の国から来ましたが、日本語・ウチナーグチという共通の言葉を見つけました。

私は那覇市に住んでいました。県費留学生の中で芸大の学生は私一人でしたから、他の県費の学生とあまり長く一緒にいられませんでした。しかし、私たちはお互いに会えばとても嬉しくなり、抱きしめ合い、話しをします。

私たちは一緒にJICAフェスティバル、大同窓会に参加して、自分の国について発表しました。また、伊平屋島の学校を訪問しお国紹介をしました。私たちは同じ時間を共有し、楽しみました。私は必要最低限の日本語を知っていましたが、常に持ち歩いていた電子辞書でわからない言葉や漢字を調べることができたので、私の日本語は上達していると思います。県費留学生の「Kenpicitos」は物事をくわしく説明してくれるなど私を言語の面でサポートしてくれたり、私の演奏会を見に来てくれて嬉しかったです。ありがとうねぇ。

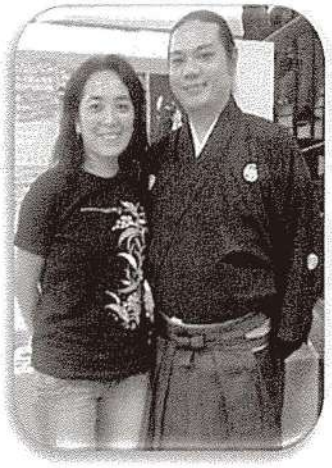
私たちはいつかまた会えることを願いつつ国に帰ります。そして隣人になります。

私が感謝しているもう一つのことは、留学のおかげで冬休みに名古屋に住んでいる私の家族へ会いに行くこと事ができました、一緒にクリスマスとお正月を過ごしました。非常に素晴らしく、特別な時間でした。

私の母は、20年前に名古屋に住んでいました。兄も6年前からそこに行きました。名古屋には多くの親戚が住んでいます。そこで一緒に特別な時間を過ごせたことに感謝したいです。私の父は、うるま市に住んでいます、那覇まで訪ねて来たときに食事しに出かけます、普段は肉を食べなかったので、私たちのお気に入りの場所は、びっくりドンキーです。
ちなみに私の好きな食べ物はゴーヤーチャンプルー、豆腐チャンプルー、そうめんチャンプルーです。チャンプルーやイリチヤーだったら　マーサイビン！とても美味しいです！！

沖縄市研修生時代に多くの友人を作りましたが、今回の留学で当時の友人たちやWYUAメンバーと会うことができました。WYUAメンバーは、世界中の若い沖縄人の友情と団結の絆を促進するための活動を行っています。

今回の留学の間、色々な舞台で三線を演奏する経験をたくさんしました。そして、とうとうペルーに戻ります。新しい友達ができて、家族と一緒に過ごすこともできました。そして、良い先生にめぐり会えたことも幸せでした。この美しい島にいられること自体も幸せに感じました。私の祖父母がこの島で生まれたことを誇りに思い、沖縄の文化や習慣などをこれからも守っていきたいという気持ちです。



私はペルーに帰って、この留学について説明して、他の人に沖縄のことを教えるとき「チムグクル」という言葉を使いたいのですが、どう伝えればよいか自分でも分かりません。。。ですが、私は私の心に思うことをそのまま言えば、きっと伝わると期待します。
平成２５年県費留学生として、私にこの素晴らしい経験を与えてくださった沖縄県と財団の皆様に、心から感謝申し上げます。私は県費留学生の年齢制限である35歳で来ました。年が変わり私は36歳になりましたが、今年はちょうど午年なので、それをここで祝うことができ、私は以前よりもずっと幸運だと思います。とてもラッキーです！！
留学お疲れ様でした！！心からどうもありがとうございました！！また会う日まで！！
Hasta pronto!!!

日本にあるもうひとつの沖縄

イノウエ　カルロス　昭雄（ボリビア）
沖縄国際大学／株式会社日進ホールディングス

学ぶ

言語

4月から8月の間は沖縄国際大学で日本語を学びました。私は地球の反対側にあるボリビアのコロニア・オキナワという村の出身で、そこでは沖縄から移民してきたウチナーンチュが住んでいて、日常的に日本語を使っているので会話は問題なかったのですが、漢字や文章などは苦手だったので、この大学で学習したことによって作文の書き方や漢字、表現など日本語を学ぶという楽しさを再確認しました。

日本語の他にもウチナーグチの授業も受けました。ある程度知識はあったのですが、ここではウチナーグチの歴史や文法など、私の知らないものもたくさんあったので勉強になりました。私達コロニア・オキナワ出身者の日本語はだいぶなまっているらしく、「おじさんとしゃべっているみたい」と言われた時はショックでした。でもそれは残すべきだという人もたくさんいたのでこれからもこのおじさんふーじーのなまりを大切にしていきつつ、ちゃんとしたウチナーグチももっと学んでいきたいと思います。

技術

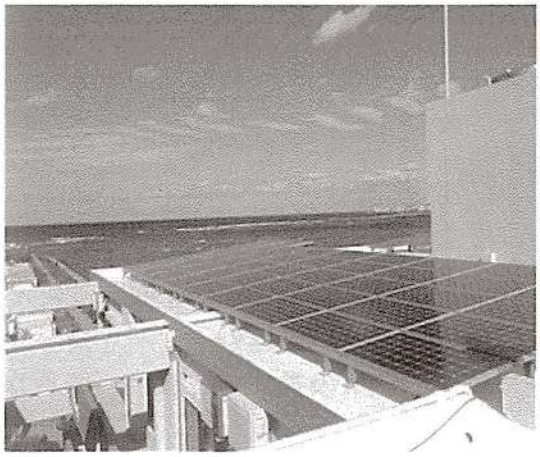
10月から翌年の2月までは企業研修で日進ホールディングスというソーラーパネルを扱っている会社で色々なことを勉強しました。

まずは、美ら架台という台風や潮風に強いソーラーパネル用の架台を実際に機械を動かしながら、鉄鋼加工、組み立までの工程を学び、更にそれの取り付け、電気工事を終えて完了するまでの流れも実際に現場に行って学びました。

ソーラーパネルの他にも車のLPGガス取り付けや点検、車検の作法も習いました。

私の専門分野が電子工学なので、電気関係の仕事や専門用語などの知識を深めることができてよかったです。

沖縄最先端のエコテクノロジーを学び、そして色んな職柄の人と話したりして、ボリビアにどうこの事業を取り込んでいけるか、比較をしながら研修ができて、いい経験になりました。



文化

来てすぐに留学生と一緒にキングタコスへ食べに行ったのですがその時にボリビアの知り合いと偶然会って、三線サークルをしているということで、私もたまに参加して忘れかけていた三線の魅力を再び知ることができました。三本しか弦が無いですが、無数の人たちの心を癒してくれるすばらしい楽器だと思います。

私が沖縄に来たいと思った一つの理由がボリビアでも活動している琉球國祭り太鼓という創作エイサー団体の本場で太鼓を叩きたいというものだったので、夢が叶ってよかったです。エイサーは国境など関係なく太鼓の音が架け橋になり、世界をつなぐ特別なものだと思います。様々なアーティストとの共演や、全島エイサー大会、エイサーページェント、杜の賑わいなど、色んな舞台で太鼓を叩かせてもらったり、色んなところへ連れて行ってもらったり、太鼓のことで語ったり、まさにエイサーシンカというのを実感しました。これからもボリビアで太鼓を叩いて、大勢の人に感動を与えたいと思います。

歴史

平和記念資料館や姫百合の塔、平和の礎などを訪れて、戦争の恐ろしさや平和のありがたさを学びました。ボリビアにいた頃はそういうのにも他人事だと思って興味を示さなかったのですが、それが移民や今の沖縄の現状にもつながっているということに気付きました。これからも私の世代もそうですが次世代の子供達にもこの事を伝えていかなければならない、忘れてはいけないものだと感じました。

気付く

沖縄に来て、数えきれないほどたくさんの発見がありました。文化の共通点や違いなどもたくさんありました。

一番大きかったのが日本語の大切さです。「あんた方はすごいねー。なんでこんなに日本語ペラペラなの？」などとよく聞かれました。日本語とスペイン語を理解・しゃべれることで、色んな人の話を聞いたり、伝えることができました。日本語を教育してくれたおじいちゃんや親に感謝の気持ちでいっぱいです。これを自分の子供にも是非伝えていきたいです。

出会い、再会

沖縄に来たいと思ったもう一つの理由が2012年にブラジルで行われた第一回世界若者ウチナーンチュ大会です。私もボリビア支部のメンバーとして参加したのですが、こんなに多くの国の人がたった一つの共通点・ウチナーンチュであるということと、同じ世代の人たちがこんなに沖縄のことを想っているんだと思って感動しました。そこから私のルーツをもっ

と知りたいと思ったのです。その当時の沖縄から来てたメンバーとの再会や約束を果たし、新たな約束をいっぱいしてきました。

ここで出会った同じ県費留学生と財団、県庁の担当は一年の楽しいことやつらいことを一緒に過ごした仲間です。これからも連絡を取り合っていきたいと思います。

それからボリビア関係者の皆さんとの再会もすごかったです。「あんたどこのね？第一出身？おじいの名前は？」などと聞かれて懐かしい思い出を話したり、当時お世話になった派遣教師達からは「昭雄か？大きくなったねー」と覚えていてくれたり、ボリビアのことを思ってくれている人たちがたくさんいました。

親戚との再会も無事果たせて、家族のことや、自分のルーツを確認できてよかったです。滞在中にはあまり会えなかったのですが、お盆の時に多くの親戚が集まり、私の事を歓迎してくれたのはありがたかったです。

伝える

一年間で大学の授業や小学校、中学校、高校でボリビア移民のことを紹介できる場をたくさん与えてもらいました。最初はプレゼンをやるのも慣れていなかったため、押しつけてる感じだったのですが、徐々にどうしたら生徒達が理解できるのか、どうやったらもっと伝わるのかを工夫していけるようになり、紹介が終わったあとに「ボリビアの事を聞いたこともなかったので、こういう歴史があるのを知ってよかった」などの意見や感想も聞けてとても嬉しかったです。

ブラジルの第一回世界若者ウチナーンチュ大会で私達ボリビア支部がフィルムフェスティバルで作ったボリビア移民の映像「もう一つのオキナワ」がとても役に立ちました。これからもこの映像が移民の参考資料になればいいなと思っています。

語る

太鼓のことやコロニア・オキナワのことについてたくさんの人の話を聞いたり、意見を交換したりしました。今年はコロニア・オキナワ入植60周年と、来年は琉球國祭り太鼓ボリビア支部の15周年など、いろんなイベントが予定されている中で、色んなアドバイスをもらったりしました。ボリビアに帰ったら課題がたくさんありますが、すこしずつ、焦らず頑張りたいと思います。

夢にまであこがれた沖縄での一年間、やはり夢のような一年間でした。長いようで短い、色んな事が起こりすぎて覚えてないほど濃い時間でした。ここでの出会い、経験は一生忘れません。これからの時間を大切にしていき、また胸を張って「沖縄、ただいま」と言いたいです。

わしたしまうちなー、いっぺーにふぇーでーびる！！

ウチナーライフ

屋良　朝仁（ボリビア）
沖縄国際大学／株式会社日進ホールディングス

沖縄…、世界地図では点一つとして見えない島だが、ここは日本や世界中で最も特徴のある文化や習慣があり、想像以上の体験や冒険などが出来る島です。
人間誰もが一度は来たくなる様な場所で、私もその中の一人かもしれません。
私の名前はヤラトモヒトです。名前、苗字そして顔も沖縄らしいですが、私はボリビア生まれ、ボリビア育ちの県系２世です。私が沖縄に来るのは初めてでしたが、何故か懐かしく感じ、来沖した次の日から地元に居る様で周りの人達も一度は見たことがあるような気がしました。しかしここは私にとって外国なので私生活の習慣の慣れはまた別の話です。

私は沖縄で最初の半年は沖縄国際大学で科目等履修生として日本語の勉強をして、そして残りの半年は沖縄の企業で企業研修をすることになりました。

大学での勉強はこのウチナーンチュ子弟留学の同期生が来る南米の国々の他に、世界中の色々な国から来る留学生と一緒に日本語を学びました。ここでは日本語を学びながら他国の文化や習慣も学ぶことが出来たので、興味深くて面白かったです。そして留学生だけではな

く、沖縄の学生との交流もたくさんありました。その中で色々な文化の違いや習慣の違いだったり、母国と比較ができたので社会の勉強になりました。私は幼い頃に日本語を勉強していましたが、大人になり、日本語の衰えを感じるようになりました。ですが大学で日本語の正しい使い方、文章の書き方やまとめ方を学ぶことができ、日本語を語学として勉強をすることに楽しさを感じました。大学の先生や交流センターの人達は優しく、丁寧に教えてくれたり、手伝ったりしてくれたのでとても感謝しています。みんなのおかげで楽しい大学生活を送ることが出来ました。大学生活の中では日本語の勉強だけではなく、色々な科目を聴講したり、図書館で読書もしたりしました。

大学にはたくさんのサークルがあり、その中の一つの琉球風車（りゅうきゅうかじまやー）と言うエイサーサークルがあります。沖縄の文化などを学ぶために入ることにしました。「心ひとつ」をスローガンにこのエイサーサークルはグループとしての団結力があり、みんなとても良い人達で私に丁寧にエイサーの振りなどを教えてくれました。そして色々な祭りやイベントで演舞や活動をして、学生団体だからこそ出来ることがたくさんありました。最高の思い出が出来てとても嬉しく、文化も大事だと言うことを学びました。

そして半年が過ぎました。大学での勉強を終えたので成果の報告会をして、日本語力の向上を実感することができました。

夏休みになり天気が段々「晴れ、時々オスプレイ」になり、沖縄独特の暑さがやってきました。沖縄と言えばやはり青々とした海。人生初めて見る海はエメラルドブルーに輝き、自分の目を疑うぐらい美しく、いつ見ても目が潤うぐらいでした。ボリビアは内陸国なので海はなく、沖縄で見た海は私にとっては印象深かったです。８月６日はボリビアの独立記念日なので、８月２日にボリビア好きな人達の団体やたくさんの人達とイベントをしました。沖縄に来てから母国の文化に触れる事もでき、自分の国がどれほど多彩で特徴的な文化であると言うことをあらためて感じました。

夏のもう一つの風物詩と言えばエイサーです。夏は旧盆なので町のあちこちでエイサーが踊られていて、私もその音色につれられて町中を探しに行きました。なぜがその音は心に響き、感動しました。

夏の最後の思い出は離島に出前授業をしに行ったことです。本島から遠く離れた島で子供達に自分の国を紹介をしたりしてとても興味を持っていました。

永遠に続くと思われていた夏休みが終わり、これから私は大きな一歩を踏み出そうとしていました。これからは企業研修が始まり、私は太陽光パネルを設置する会社で研修をすることになりました。今からはエコの時代なのでこの会社で研修を受けるのはとてもいい機会になりました。研修はパネルを設置する架台から作ることから始めました。工場での作業は重労働で、夏休みを終えたばかりのせいか、とてもきつく感じました。

その後は太陽光パネルを設置したり、電気工事をしたり、そしてメンテナンスなども習いました。働くスピードはちょっとはやくて、あまり慣れてないこともあって手間どう時もありました。ここでは仕事だけではなく人との付き合い方なども勉強になりました。

２月の上旬には「外国人による日本語弁論大会」が行われました。ここでは世界の色々な国から１２名が参加し、みんな日本語がとても上手でした。私は賞を取ることは出来ませんでしたが、みんなの笑いが取れたので、満足しています。

春夏秋冬が過ぎ、沖縄で生活をして一年近くになろうとしています。もうここでの生活に慣れてきたかなと思うと、そろそろ留学期間の終わりが近づいていて帰る日も段々近づいています。しかし、ここで学んだ日本語、沖縄の文化、歴史、国際交流や仕事などで覚えたものは自分の国に帰っても忘れないようにします。沖縄での留学は私の人生の中で一番大きな出来事の一つで、今となっては本当に沖縄にきて良かったと思います。親戚、大学の先生、そして色々な団体など、面倒を見てくれた人達や優しくしてくれた人たちに心の奥から感謝の気持ちでいっぱいです。ここでの体験は一生忘れないでしょう。

SPEAK

命どぅ宝

～わんねー田辺エリアナ
やいびーん。アルゼンチン
からちゃーびたん～

田辺　エリアナ　ナンシー
（アルゼンチン）
沖縄国際大学

意識がある頃から家族皆でロサリオ日本人会と触れ合いがあります。なぜかというと、父方と母方、祖父母４人は日本人だったので、両親はいつも日本人会と関係ある活動を応援しています。そして、祖父母４人ロサリオに住むことにした頃からロサリオ日本人会で色々な活動をしていました。だから、家族は祖父母の影響を受けて、ロサリオ日本人会に協力しています。ロサリオ市に住んでいる日系人は多くないので、ロサリオ日本人会で皆お互いに助けて、日本人会のために活動して、本当に家族みたいな感じです。

母方の祖父母はウチナーンチュでしたが、父方の祖父母は島根県出身でした。けれども、家族は特に母方の影響を受けました。つまり、私の家族は沖縄らしい家庭です。私はこんなに沖縄の事が好きな理由が分からないですが、実際に、大好きです。

私は幼稚園から日本語を勉強し始めました。お母さんはロサリオ日本語学校の事務員として働いているので、子供の頃から連れて行かれました。だから、県費留学生として日本語能力をもっと強くなりたいという目的があります。

帰国したら、できるだけ三つの目的を達成したいと思います。一番目、ロサリオ日本人会でOB・OG会がありませんので、他のOB・OGと協力しながら、次の県費あるいは研修生を手伝うために、OB・OG会を作りたいです。二番目の目標は、沖縄で学んだことを伝えていきたいです。そして、三番目はロサリオ日本人会で「未来部」というグループで活動したいと思っています。この活動は、子供達に向けて、ゲームや音楽などを通して、日本語の力及び日系アイデンティティをもっと強くするために作られました。だから、帰国したら子供達に、できるだけ、日本語のみならず、文化や歴史などを勉強することの大切さを伝えていきたいと思っています。つまり、ルーツを知ることの大切さです。この三つの目標をしっかりして沖縄に来ました。

沖縄国際大学

県費留学生として沖縄国際大学に行くことにしました。授業が始まる前に、先生方と日本人の学生さんは、新留学生のために「Welcome Party」をやりました。県費留学生５人と台湾から来た３人でした。沖国の皆さん会ったばかりなのに、親切にしてくれて、本当に「いちゃりばちょーでー」を感じました。

この一年間は非常に素晴らしい年でした。私にとって、特に沖縄国際大学に来たのは大変よかったと思っています。なぜなら、沖国の日本語プログラムのおかげで日本語が上達したと思うからです。元々自分は日本語を上手に話せるようになるため沖縄へ留学をしたいと言う目標がありました。しかし、予想以上にも書くこと、読むこと、聞くことも上達したと思っています。なぜなら、この日本語プログラムは外国人向けに考えられているからです。けれども、このプログラムで感じたことは、日本語が上手になるのみならず、日本人と同じように話したり、書けたり、読めたりと聞けたり、それらができるようになるために考えられています。例えば、日本語作文で書くことを習うだけでなく、日本人がよく使うオノマトペも学んだことになりました。毎日、先生方は課題を説明したり、宿題を出したり、テストも受けました。その勉強のおかげで１２月に日本語能力試験の N2 レベルを受かることができました。前は、N2 レベルは本当に無理だと思ったけれど、合格して大変嬉しいです。

さらに、日本語以外の授業も取れるので、沖国は最高だと思います。私の場合は二つを取りました。国際平和学と沖縄民俗学です。国際平和学で沖縄戦、ベトナム戦争、色々学んだのですが、何より平和及び生命の大切さをまた理解できて、大変勉強になりました。そして、沖縄民俗学でトートーメーや家族、ウチナーグチや沖縄の習慣などを学んで、非常に勉強になって、興味深いと思います。

沖国に来て、嬉しいです。日本語だけでなくて、沖縄についても勉強になりました。又、先生方、日本人の友達、留学生の友達、沖国で一緒に過ごした時間はいつまでも忘れません。本当にありがとうございます。

この一年間で沖国の向いのアパートに住んでいました。サトミとクラウディアも同じ建物に住んでいました。毎日お互いに助けあったり、勉強したり、遊んだりして、また色々な場所やパーティーも行きました。沖国メンバー５人は南米の人なのに、毎日新しい出来事を楽しみにして過ごしました。それぞれの国の習慣や言葉などを比べながら笑いました。

家族のつながり

この県費留学生で私は自分のルーツを知るために始めて沖縄に来ました。祖父母は南城市出身なので、絶対祖父母の故郷を見なければいけないと思いました。おじの兄弟は全員アルゼンチンへ移民したので知っているけれど、おばあの家族は一人の兄しか知りません。沖縄に来て、おばあの甥の家族と出会って、本当に嬉しいです。初めて会う親戚は祖父母や家族の写真を見せてくれて大変楽しかったです。初めて会う人達なのに両親や祖父母のことを知っていて「家族のつながり」を感じました。おばあの家を見せてくれ、おいしい物をたくさんごちそうしてくれました。私のことを知らないのに、色々お世話になって本当にありがとうございます。

そして、あっと言う間に８月になりました。夏休みに入って、日本本土へ旅行することができました。二週間の旅で神戸、奈良、大阪、京都そして東京も行くことにしました。初めて一人で旅行して、非常に楽しかったです。日本も始めてだから、たくさんの行ったことがない場所へ行くことができました。けれども、何より素晴らしいことは、あちらでも会ったことがない親戚と会うことができました。初めて会う親戚に「お母さんとそっくりだねぇ！」とか「お父さんと同じ性格だわ」と言われて、初めて会う人達なのに、両親の事を知っていて「家族のつながり」を運よくもう一度感じました。

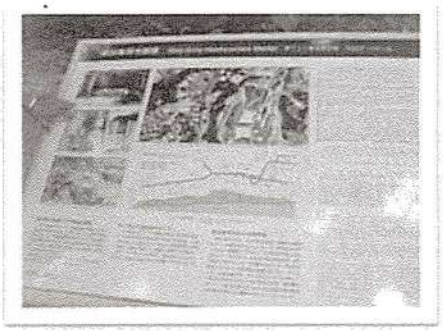
沖縄の家族、日本本土の家族、初めて会ったのに、心にかけて決して忘れません。又、アルゼンチンの家族、応援してくれて本当にありがとうございます。

交流をしながら、活動やイベント

６月になって、「移民の日」が行われました。県費として、移民の日のイベントに参加することになりました。県費達、踊りと三線で「安里屋ユンタ」を演奏しました。

初めて演奏したので、非常に緊張して、何回も間違いました。しかし、他の県費と一緒に弾いたことは大変楽しくて、良かったです。

そして、カロ、サトミと大学院生の友達と一緒に６月２３日、慰霊の日及び平和を学ぶためにフィールドワークをやりました。首里高校の慰霊祭で一中健児之塔の資料館に行って、少年兵の遺品展示を見ることができました。そして、首里城の第３２軍指令部壕跡、嘉数高台と最後は佐喜眞美術館も訪ねました。この平和学習で、沖縄と米軍基地の問題をまた少し理解できて、大切な勉強になりました。沖縄に来て、平和の大切さを感じることが出来て、平和を守ることは貴重なことだと思います。



又、１１月に沖国祭が行われて、この平和学習の展示をすることになりました。皆一生懸命に、この平和学習やフィールドワークについてそれぞれの感想を書いて、展示しました。そして、沖縄戦で日本軍「慰安婦」被害者達のためにハガキを作りました。そのハガキの売り上げは被害者たちが創立した、戦時被害女性を支援するナビ基金へ全額寄付されました。

９月２６日、一泊二日、NGO と担当者二人と伊平屋島で学校訪問に行ってきました。小学校で県費みんな、国々を紹介しました。私はサトミとアサミ、アルゼンチンとブラジルについて発表しました。発表する前に、「どうやってすればいいのか？」、そして終わった後「ちゃんと伝わったかな？」と不安だったですが、子供と交流したのが非常に楽しかったです。４年生にアルゼンチンを紹介して、子供達とおしゃべりできて最高の思い出になりました。そして、４，５と６年生、先生の方々と NGO の皆さんと一緒に「１００人村」というゲームもやりました。けれども、この学校訪問で子供達と交流のみならず、他の県費、NGO の皆さん、担当者二人とも交流ができたので、大変に良かったと思っています。

沖縄 NGO センターで色々な活動に参加することができました。まず、カロのスペイン語サークルのサポーターとして、毎週水曜日、１時間ぐらいで便利な会話や面白い会話、スペイン語の早口言葉やゲームなどを通して、カロとスペイン語を教えました。そして、子供の国で、子供達は海外で違う文化があるということを教えるために、交流をしながら楽器や衣装で子供達に伝えました。又、１１月に NGO が実施した「地域で学ぶ一日ツアー IN 読谷」というフィールドワークが行われました。山内徳信さんの話を聞くことができて、そして、チビチリガマやシヌクガマ、歴史民族資料館や座喜味城、FM 読谷や渡具知ビーチなどを見ることができて、非常に勉強になって、大変興味深かったです。沖縄や歴史、移民や交流などについて NGO のおかげで、たくさんのことを学びました。沖縄 NGO センターの皆さん、色々教えてくれて、色々お世話になって、心からありがとうございます！

１１月にJICAフェスティバルが行われました。留学生それぞれの国でパネルを作って、デビ、カレン、カロと一緒にアルゼンチンについて紹介しました。そして、たくさんの人々と出会って、アルゼンチンの日系社会について紹介して、良かったと思います。又、Junior Study Tourのワークショップで初めてカルタというゲームをして、皆は非常にドキドキしていて、大変面白かったです。また、移民のカルタでしたので、勉強になりました。

又、WYUA（世界若者ウチナーンチユ連合会）で毎週のミーティングに参加させてもらいました。非常に親切にしてくれて、色々教えてもらって、様々な場所へ連れて行ってくれて、本当に感謝しています。WYUAに参加して、ウチナーネットワークや沖縄の習慣、ウチナーグチやルーツなどの大切さをまた理解できて、非常に勉強になりました。ウチナーの特性を守るために頑張りましょう！私も、アルゼンチンで頑張りたいと思って、WYUAのメンバー、アルゼンチンから応援しています！！

私は初めて家族と離れた年末とお正月を迎えました。最初は寂しかったけれど、留学生と日本人の友達と一緒に過ごして、とっても楽しくて、本当に良かったです。

何回も言いましたけれど、この一年間は楽しい日々は夢のようにあっと言う間に過ぎました。県費留学生活は三月に終わりました。一年間だったけれど、3ヶ月みたいな気持ちです。たくさんの国の人達と出会って、会ったことがない家族と会えて、この一年間は非常に素晴らしいです。楽しい時も、苦しい時も、経験した事全てが勉強になったと思っています。沖縄で学んだことは、全部伝えて行きたいと思っています。私達は日系人として、祖父母が築いてきた歴史や文化などを大切にしなくてはいけません。祖父母や自分達のためだけでなくて、沖縄の特性がなくならないように、学ばないといけません。つまり、次の世代と未来のために自分達のルーツを守って大切にし、それを次の世代に伝えなければなりません。

この一年間で本当に良くしてもらって「いちゃりばちょーでー」という言葉を実感することができて、皆さんのおかげです。出会った皆さん、応援してくれて、色々助けてくれて、いつまでも感謝しています。本当にククルからイッペーニフェーデービル。この一年間の思い出は一生の宝物です。Muchas Gracias!